

家庭教育力の強化を図る

家庭・学校・地域との連携による持続可能なPTA活動

武豊町立武豊中学校PTA

1 はじめに

武豊町にある本校は、全校生徒が約900名の大規模校である。古くからの伝統が残る地域もあれば、新興住宅地からなる地域もあるなど、伝統と新しい風が織りなす学区である。

家庭の様子を鳥瞰すると、両親ともに働いている世帯が多い。また、一人親世帯も年々増えている傾向が見られる。しかし、学校公開日や学校祭には、多くの保護者が来校しており、学校に対する関心は高い。



【武豊町立武豊中学校の外観】

2 研究への取組

(1) 本校のPTA組織

本校のPTA組織は、「役員会」と「実行委員会」から成り立っている。役員会は、会長・副会長・書記・会計・会計監査・保健委員長・広報委員長・バザー委員長から構成されている。実行委員会は、役員会のメンバーに加えて、保健委員・広報委員・バザー委員それぞれ10名を加えた約50名で組織されている。この役員会・実行委員会を支えるのが、PTA一般会員である。

(2) 研究のねらい

家庭は、児童生徒の「健やかな育ちの基盤であり、家庭教育は、すべての教育の出発点」と言える。しかし、昨今は、地域性の希薄化や、親が身近な人から子育てを学び、助け合う機会が減少するなど、子育てや家庭教育を支える地域環境が大きく変化している。

そのため、「家庭・学校・地域の連携」によりPTA活動を充実させることは、家庭教育力の強化につながり、生徒の健全な成長に寄与すると考える。本校のPTA規約にある「父母と教師と地域社会の協力を促進して、生徒の心得の健全な発達を図る」という記述はその証左と言える。

しかし、その一方でPTA活動を取り巻く状況は厳しさを増している。

本校にも、P T A活動に対して否定的な意見をもつ保護者が少なくない。学校評価アンケートには、「共働きの両親にとってP T A活動は負担が大きい」「P T A活動のメリットを感じられない」などの意見が散見された。

以上のことから、P T A活動により家庭教育力の強化を図るためには、「家庭・学校・地域が連携すること」に加えて、「保護者の負担を減らし、持続可能なP T A活動であること」「参加したP T Aに満足感を与えること」が大切と考え、P T A活動を展開することとした。

3 実践活動の概要

(1) 家庭・学校・地域との連携によるP T A活動

① 登校時の「あいさつ運動」

本校では、年2回、生徒・教職員・P T A役員・地域の方々（民生委員・少年補導員）等と、生徒の登校時に「あいさつ運動」を行っている。普段、あまり関わることがない民生委員等と「あいさつ運動」を行ったことで、参加した生徒は「自分たちが地域の人から見守られていると感じた」と感想を述べていた。



【「あいさつ運動」の様子】

参加したP T A役員・地域の方々からも、生徒と直に接することで、中学生を身近に感じることができたとの声が聞かれた。年2回の取組のため家庭教育力の向上に飛躍的に効果があるとは言い難いが、長期的な視点に立てば、このような「あいさつ運動」を行うことは、「家庭・学校・地域」の連携に効果的と言える。

② サポーターズクラブ

学期に1回程度、サポーターズクラブという環境整備活動を行っている。参加者は生徒・教職員・P T A役員・P T A一般会員・歴代P T A関係者である。

校内の草刈りや石拾いなど学校の環境整備のために共に汗を流すことで、参加者は一体感や



【サポーターズクラブによる運動場整備】

満足感を感じていた。また、歴代P T A関係者が自分の子どもが卒業

していても学校のために働く姿を直に見ることで、生徒の心の中には地域の人への感謝の念が生まれていた。さらに、普段あまり話すことがなかったPTA関係者同士も、教職員が仲立ちをすることで会話がはずみ、新たなつながりが生まれていった。

(2) 持続可能なPTA活動

本校のPTAは、「保健委員会」「広報委員会」「バザー委員会」の三つから成り立っている。活動回数を必要最低限にするなど保護者の負担を減らすとともに、PTA委員が高い満足感を得られるように工夫して活動に取り組んでいる。

① 保健委員会の取組

保健委員会は、年2回部会を開いている。主な活動内容は、扇風機のカバー作りである。PTA委員が作った扇風機カバーは教室で使われるため、生徒はそのカバーを見るたびにPTAとのつながりを感じている。PTA委員からも、「自分たちが作成した扇風機カバーが教室で使われることが嬉しい」「生徒が快適に学校生活を送るために手伝いができて嬉しい」などの声が寄せられている。



【保健委員会によるカバー作り】

また、「給食試食会」として、PTA委員が実際に学校給食を食べ、意見を伺う機会を設けている。参加したPTA委員からは、「これまで話をしたことがなかった保護者と話をする事ができた」「給食について家庭での会話が増えた」などという感想が見られた。「扇風機のカバー作り」という学校の環境整備に加えて、「給食試食会」という機会を設けたことで、PTA委員は大きな満足感を得ていたと言える。

② 広報委員会の取組

広報委員会は、年3回PTA新聞を発刊している。企画・取材・編集という難しい仕事は行わず、写真撮影が主な活動である。撮った写真を印刷会社へ送り、そこからの誌面づくりは印刷会社が行うため、PTA委員の負担は少ない。



【広報委員による打合せ】

広報委員になってよかったとの声が聞かれる最も大きな場面は、学

校祭（文化祭・体育祭）である。P T A新聞づくりのための取材という名目の下、ベストポジションで我が子を含めた生徒が活躍する姿を撮影できるため、多くの保護者から「広報委員になりたい」という声が上がっている。

③ バザー委員会の取組

バザー委員会では、卒業して使わなくなった制服やジャージ、靴などを学校祭のときにリサイクル販売している。活動回数は、年3回程度である。経済的に困窮している家庭が制服やジャージなどを購入する場面が見られ、感謝の声を聞くことが多い。保護者相互のつながり、保護者と地域のつながりを感じることができる取組である。



【バザー委員によるバザー準備】

保健委員会と同様に、バザー委員会でも給食試食会を設けている。ここでも、保護者同士の交流、学校関係者と保護者との交流が行われ、両者の関係強化につながっている。

4 おわりに

現在の学校を取り巻く環境は、P T A活動の精選や縮小が求められている。そのような中で、本校では、保護者負担を軽減させるとともに、高い満足度が得られるようにP T A活動を工夫した。これによって、多くのP T A委員から、「P T Aに参加してよかった」という声が聞かれた。その理由を尋ねると、多くのP T Aが、「学校のことをよく知ることができた」「陰で多くの大人が我が子を支えていることを知ることができた」「これまで関わりがなかった保護者と友達になることができた」と答えた。この発言からは、本校のP T A活動が、少なからず「家庭・学校・地域の連携」に寄与したと考えることができる。換言すると「家庭教育力の強化」の一助につながったと言えるだろう。

「家庭・学校・地域の連携」による「家庭教育力の強化」は一朝一夕には難しい。そのため、今後も継続して、持続可能なP T A活動となるように工夫・展開していくことで、「家庭・学校・地域の連携」による「家庭教育力の強化」を進めていきたいと考える。